

令和5年度 事業報告について

事業概要

令和5年度は、コロナウイルス感染症の5類移行により以前の活気を取り戻しつつも燃料価格をはじめとする物価の高騰や、年度末には日経平均株価が過去最高値を更新するなど社会経済が激動した年となったほか、異常気象となった夏の猛暑日による作業効率の悪い労働環境下での就業であったことにより、請負契約額が減るなど事業面で少なからず影響を受けました。

また、10月からはインボイス制度が開始されたほか、新たなフリーランス保護法の施行に伴う契約形態の見直しや、それに伴う会員のスマホやパソコンの活用によるデジタル化など、次々と大きな課題に直面する年となりました。

特に、従来からの中核事業であります庭木剪定や除草業務などを担う会員の高齢化や後継者不足が長引いており、65歳定年制の導入や企業における70歳雇用努力義務など雇用環境の変化による入会会員の減少問題が大きな要因として、あらゆる事業運営に大きな影響を及ぼしています。

しかしながら、シルバー人材センターは、長期の人口減少過程の中で、生涯現役社会を実現するために働きたいと願う高齢者の就業を高めていく担い手として、地域社会の期待が一層大きくなっていることから、役職員や会員が第四次中期（5か年）計画に沿って、その実現に取り組んできました。

特に、**組織活動の充実や会員拡大**では、役員によるスマホ等を活用した連絡調整や、入会説明会の手続き有効期限を設けるための検討を行いました。また、**就業開拓の推進**では、教職経験のある会員が中心となり小学生の学習をサポートする寺小屋事業として春休み教室を開設しました。更に、**財政基盤の強化等**では、令和6年度からの事務費率引上げの発注者への周知について、あらゆる機会をとらえ説明を行ってきました。

最重要課題であります**会員の拡大**については、会報「シルバー須高」やホームページによる情報発信、高齢者活躍人材確保育成事業を活用したお掃除講座・おしゃれ術講座などの実施、入会説明会開催回数の増、入会の迅速な承認、地域班や会員の口コミによる「会員ひとり1会員拡大」活動により、**会員数**は3月末で627人となり、前年度同月末会員数との比較では9人増と前年度と同様に僅かな増となりました。

事業面では、請負・委任事業において特に一般家庭からの発注が減少し、受注件数で231件の減、就業延人員数で986人の減となり、3月末の事業収入は、296,128千円で、前年度同期比1.7%の減となりました。就業率は84.8%でありました。

派遣事業については、受注件数は21件で同数であるものの就業延人員数の増により契約額は34,139千円となり、前年度同期比8.8%の増となりました。

この結果、請負・委任及び派遣事業の収入等の合計は330,267千円で、前年度同期比0.7%の減に留まりました。

安全就業につきましては、事故件数は3月末で傷害・賠償等合わせて6件で、前年同期と比較し1件の増となりましたが、安全適正就業推進大会に参加したほか安全ニュースの発行や安全パトロールの実施など安全就業の推進に取り組んでまいりました。

以下、主な事業等について報告いたします。